

お互いの助け合いによる福祉のまちづくりをめざして

地域福祉計画づくりを進めます

地域福祉計画策定のための市民アンケートの結果報告

■福祉ニーズが増大・多様化しています

少子高齢化が進み、世帯のあり方も大きく変化する中で、家庭や地域の支えあう力が弱くなり、自分のことだけに關心や興味を向ける傾向にあります。その結果、子育てや介護に伴うストレスの増加、一人暮らしのお年寄りの孤立化など、生活の不安も増えています。

■地域福祉の原動力となる社会資源が整いつつあります

市内には、中学校区単位に地区社会福祉協議会が設置され、各町内会単位に福祉委員会が整備されつつあり、地域福祉計画の推進の中心を担う社会資本や人的資源があります。また、ボランティアやNPO法人による子育て支援や一人暮らしの生活支援などが活発になってきています。

■地域福祉を推進するルールづくりが必要です

このような状況の中で、地域の皆さんが主体となって、お互いの助け合いによる福祉のまちづくりをめざし、個人の尊重と自立、そして住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らしていくために、地域活動の推進を目的とした「(仮称)安城市地域福祉計画」を皆さんとともに作りたいと考えています。

この計画づくりに役立てる資料とするため、市民の皆さんの地域活動への参加状況や福祉に関する考え方、これからの地域福祉のあり方について、アンケート調査を行いました。その結果がまとまりましたので、概要を紹介いたします。

なお、詳細は、市政情報コーナー、障害援護課、市ホームページでもご覧いただけます。



福祉まつり会場でのアンケート調査

調査の概要

■調査対象 ①18歳以上の市民(大人) 1883人 ②13歳から17歳までの市民(思春期) 117人 ③市内の福祉関係者、団体など200団体

■調査期間

平成15年10月～11月

■有効回収数(回収率)

①883人(45・8%) ②64人(54・7%) ③130団体(65・0%)

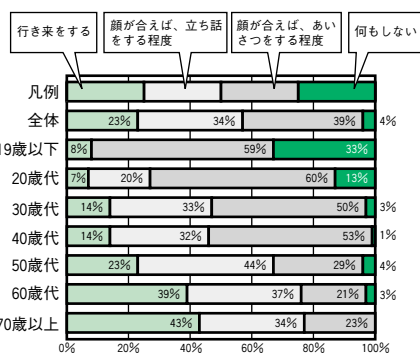


近所付き合い

20歳以上の人の8割以上が、顔が合えば立ち話をしたり、あいさつをしたりする程度以上の近所付き合いをしており、加齢とともにつきあいが深くなります。

また、賃貸住宅に住んでいる人は、隣近所に誰が住んでいるのか分からない、あるいは、近所付き合いをしない人が1割となっています。

これからの近所付き合いについては、安城市で暮らし始めて5年未満の人の4割が、もっと付き合いを広げたいと答えています。



【近所付き合い】

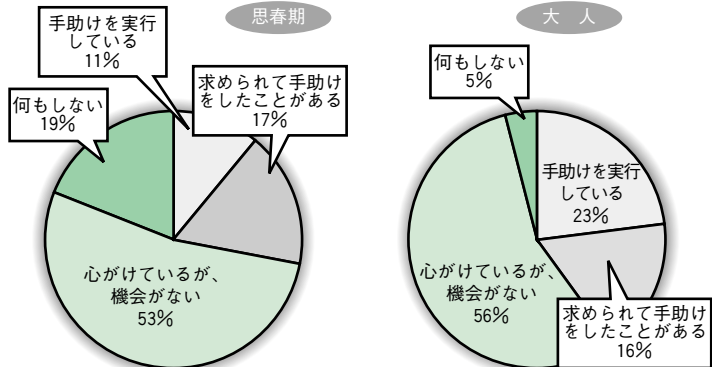
地域での助け合い

大人の4人に1人が、まちで困っている人を見かけたときに助けを求めています。思春期の人は1割にとどまっています。

また、求められて助けをしたことがある人は、女性より男性に多くなっています。

地域で困っている世帯があったらできることとして、8割の人が安否の声かけと答えています。

その一方で、自分や家族が困ったときに欲しいことでは、安否の声かけは64%となっており、3割の人が病院や学校などへの送り迎え



【地域での助け合い】

(自分ができることとしては1割)と答えています。

暮らしの中での困りごと

大人の55%が、自分の健康について、困りごとや不安を持っています。災害に関することがわずかな差で続いています。

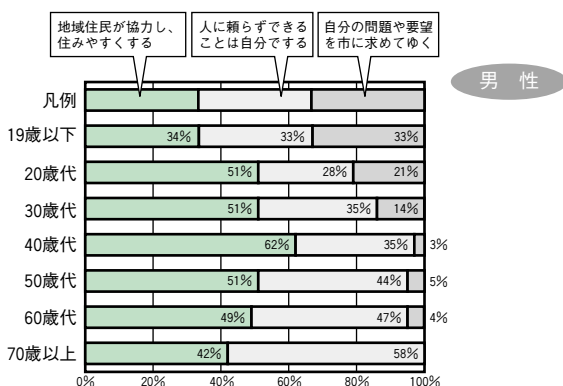
その相談相手については、大人の7割以上、思春期の6割以上の人が友人と答えています。

生活への支援

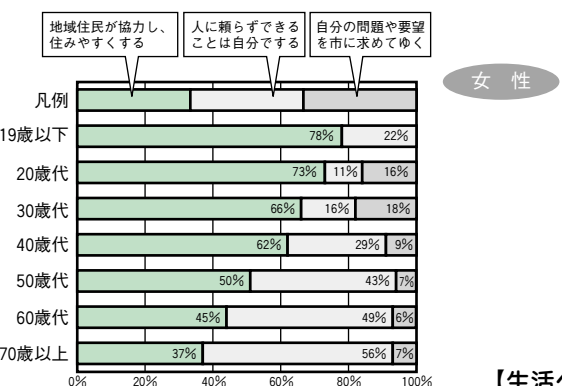
大人の55%が、地域生活ではお互いの助け合いが重要と考えており、自分の問題や要望を行政に求めている人は1割にとどまっています。また、女性では、加齢とともに人に頼らず自分でできることは自分でする人が多くなっているのが特徴です。

福祉の充実と費用負担

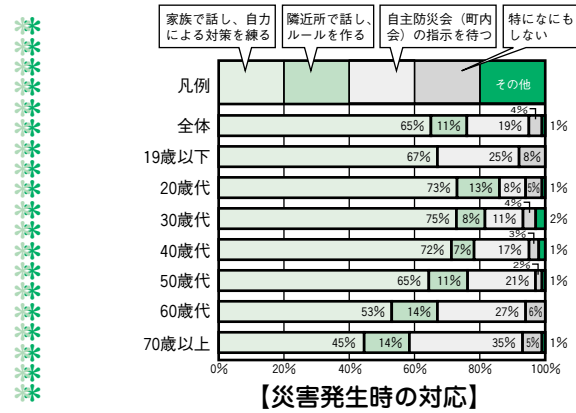
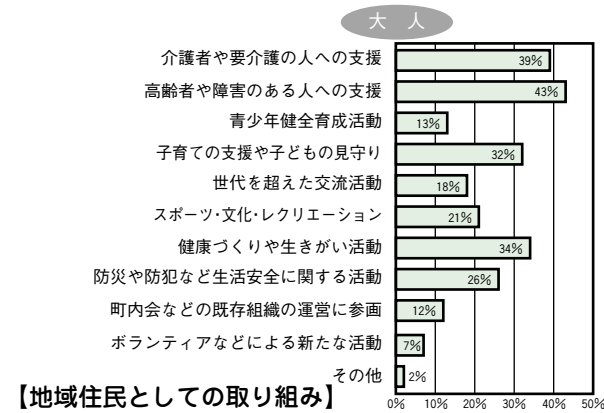
大人の7割以上の人が、福祉サービスを充実すべきだが、その財源となる税金などの負担が増えることは好ましくないと考えており、この傾向は、男性より女性に多く見られます。



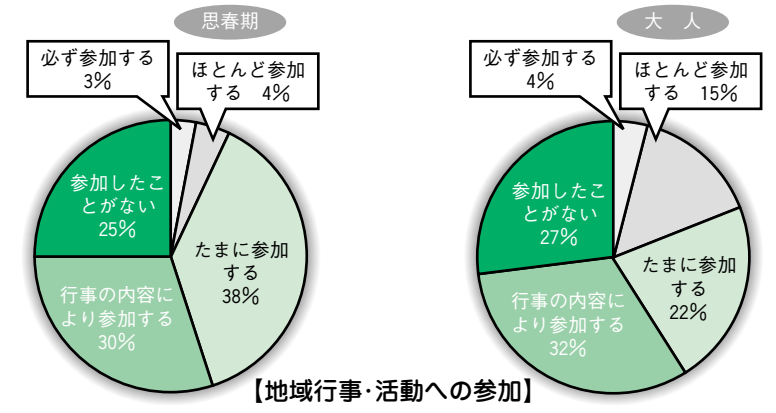
【生活への支援】



【生活への支援】



ボランティアによる活動
（福祉まつりでの高齢者障害者疑似体験）



災害発生時の対応

全体の65%の人が、地震などの自然災害が間近になったときには、家族で話し合い、自力による対策を練ることを考えており、地域組織の指示を待つとした人と比べて非常に多くなっています。ただし、加齢とともに自助的な考えは少なくなっています。

地域住民としての取り組み

大人の4割前後の人が、今後住みよいまちづくりを進めるうえで、地域住民として、高齢者や障害のある

あなたも（仮称）安城市地域福祉計画「づくり」に参加しませんか

市は、みんなで進んで参加できる地域活動の推進を目的とした（仮称）安城市地域福祉計画「づくり」に向けて、準備を進めています。この計画は、地域福祉活動を支援するとともに、高齢者・障害者・児童に関する福祉の3計画を補つものであり、皆さんの生活に密接にかかわるものです。そのため、計画をつくるにあたっては、関係団体や専門員だけでなく、一般市民から策定協議会委員を公募する予定です。詳細は、今後、本紙やホームページなどを通じてお知らせします。興味があり、計画づくりに参加を希望する皆さんをお待ちしています。



地域行事・活動への参加

大人の3割以上の人が、内容によっては地域の行事や活動に参加しており、たまたま参加する人と合わせる

と5割を超えています。また、思春期の人では、たまたま参加する人が多くなっている一方、ほとんど参加する人が少なくなっています。大人も思春期でも4人に3人が何らかの形で地域の行事や活動に参加しています。大人の8割の人が、町内会の活動に参加しており、他の団体と比べて圧倒的に多くなっている一方、思春期では、6割の人が廃品回収、5割の人がお祭りに参加しています。なお、大人で参加したことがないと答えた人の約半数が、その理由として仕事などの都合をあげています。

ボランティア活動への参加

大人の46%の人が、現在はボランティア活動に参加していないが、今後は参加したいと考えており、今後も参加したいと思わない人は3割以下となっています。

思春期の37%の人が、以前は参加していたが、現在は参加しておらず、今後は参加したいと考えている人も、4人に1人とどまっています。

今後参加したいボランティア活動

今後も参加したいと思わない人を除いて、今後参加したいボランティア活動は、大人と思春期のどちらも環境保護・清掃美化に関する活動が多くなっています。

また、高齢者の援助や子育ての支援については、男性より女性の方に多く見られます。

大人の5割以上の人が、ボランティア活動に関する研修や講習会に参加したいと考えていますが、思春期では4人に1人とどまっています。

ボランティア活動の条件

大人の7割以上の人が、ボランティア活動を進めていくうえでは時間的・経済的ゆとりが必要と考えています。

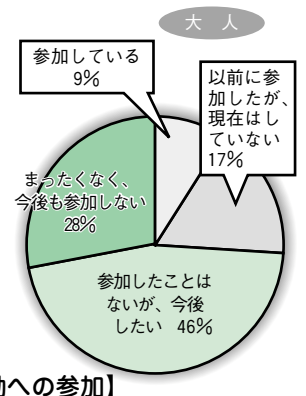
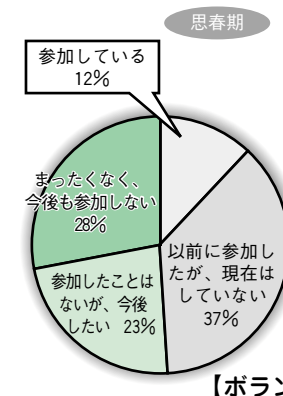
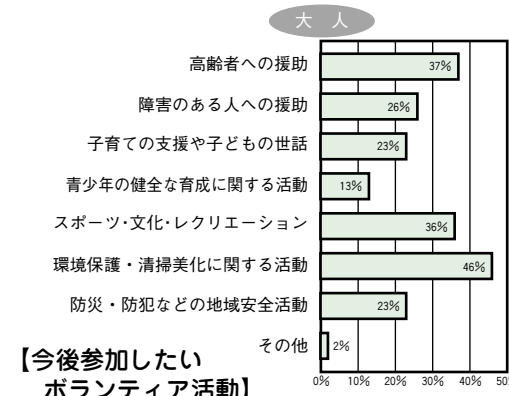
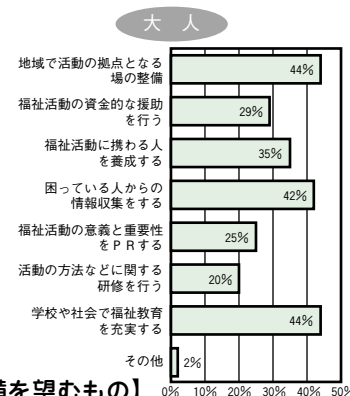
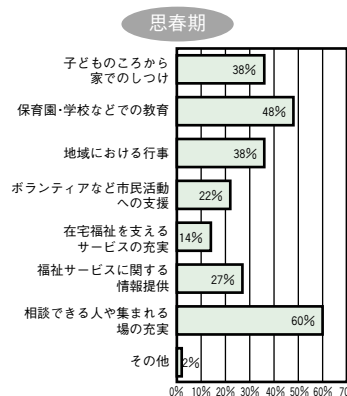
また、4割の人が、有償ボランティアについて否定的であり、無報酬が原則と考えています。



人、介護者や要介護の人への支援に取り組んでいきたいと考えています。また、これからの福祉が重点を置くこととして、大人の5割の人が、健康や生きがいづくりの支援と答え、住民がお互いに助け合うまちづくりが続いています。

今後整備を望むもの

大人の4割以上の人が、助け合いを活発にするために必要なこととして、活動拠点の整備、福祉教育の充実、困っている人からの情報収集をあげています。また、思春期の6割の人が、相談できる人や集まれる場の充実と答えています。



◆問い合わせ◆ 障害援護課

地域福祉計画アンケート調査結果報告書は障害援護課のホームページで公開しています
<http://www.city.anjo.aichi.jp/kakuka/engo/index.html>